



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/01/25(土)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 137

第39回北海道ミニバスケットボール大会 兼
第45回全国ミニバスケットボール大会北海道地区予選会を終えて

北海道ミニバスケットボール連盟
技術委員長 青木 純

平成26(2014)年1月9日(木)～12日(日)にかけて、第39回北海道ミニバスケットボール大会が行われました。女子の優勝は、札幌地区1位の「札幌札幌緑ミニバスケットボール少年団」、準優勝は、札幌地区2位の「マジカルキッズ」、第3位は、札幌地区3位の「札幌上野幌西バスケットボール少年団」と、札幌地区6位の「札幌上野幌東ミニバスケット少年団」でした。

優勝した札幌緑は、運動能力の高い二人のガードがいるため、どのクォーターも安定していました。また、オフェンスのフロアバランスがよく、しっかりとパスを回し、アウトサイドからシュートを決めたりドライブをしたりと、チャンスを見極めてオフェンスをすることができていました。準優勝のマジカルキッズは、ガードが自らドライブで切り込んで得点をしたり、アシストをしたりするチームでした。

女子のベスト8の内、札幌地区が7チームと札幌の活躍が目立っていました。中でも、3位の上野幌東やベスト8の札幌和光は、5年生の活躍が著しく、来年の活躍が期待されます。

男子の優勝は、苫小牧地区1位「美園小ミニバスケットボール同好会」、準優勝は、北見地区1位の「小泉ミニバスケットボール少年団」(昨年3位)、第3位は、札幌地区2位の「札幌西園ミニバスケットボール少年団」と札幌地区1位の「恵庭和光ミニバスケットボール少年団」でした。

優勝した苫小牧美園は、170cm近くの選手が3人いる、過去にもあまり例がない大型のチームでした。中でも171cmのキャプテンは、ガードもできる素晴らしい選手でした。準優勝の北見小泉のキャプテンは、ドリブルでのキープ力やスピード、パス、シュートの3拍子揃った素晴らしいガードでした。また、北見小泉は、無駄なドリブルが少なく、オフェンスのフロアバランスをしっかりとってパスを回すことができていました。

男子は、ベスト8の内、札幌地区が4チームということで、女子とは対照的に、札幌地区以外の活躍が目立ちました。旭川の愛宕東は、残念ながら予選リーグで敗退してしまいましたが、優勝した苫小牧美園に4点差までせまる活躍をみせるなど、素晴らしいチームでした。また、札幌地区の恵庭ミニバスも、苫小牧美園相手に後半途中までリードするという、素晴らしいゲームを見せてくれました。

今大会を振り返ってみますと、勝ち上がったチームには、安定感のあるガードがいました。そのガードがボールを持つことで、落ち着いて試合を運ぶことができていました。また、ミニバスはドリブルを多用するチームが多い中、パスやピボットの技術の大切さを改めて感じました。相手がダブルチームを仕掛けてきたときに、どのように対応するかという技術をしっかりと身に付けてほしいと思います。

HBA (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会